

目 次

はじめに	園長 中村 俊直	1
I. 研究について		
研究テーマ「環境に対する豊かな感受性を育む」3・4年次		5
II. 空間から場へ	～園舎やその周辺の空間で織りなされる子どもたちの遊び・暮らし～	
1. 保育室		
事例1	お母さんを送りに行く	13
事例2	安心の拠点となる「縁台」	14
事例3	「縁台」を舞台にしたコンサート	15
事例4	朝の保育室	15
まとめ（保育室）		
2. 保育室ととなりあう空間		
保育室（出かけていき戻ってくる場として）		
事例5	電車ごっこ	25
事例6	せんべいや	27
たたき		
事例7	花壇の「たねやさん」	29
事例8	色水づくり	30
事例9	たたきに絵の具のコーナー	32
廊下		
事例10	廊下のT字路でのショーごっこ	35
事例11	おうちごっこ	36
まとめ（保育室ととなりあう空間）		
3. 「その先」の空間		
遊戯室		
事例12	マジックショー	45
事例13	スケートショーからファッションショーへ	47
コート室		
事例14	ドミノ積み木でピラミッドができた！	51
事例15	スケート・ダンス	52
事例16	お化け屋敷	54
アトリエ		
事例17	カプラの街	58
事例18	おしるこパーティー	61
子どものうち		
事例19	子どものうちで過ごすこと	67
保健室		
事例20	ある日の保健室	71
事例21	「手当て」から育まれること	72
事例22	保健室と園庭マップ	73
まとめ（「その先」の空間）		

III. 子どもたちの場への関わり

1. 場と出会う

事例23 見る	81
事例24 見えなくする	83

2. 場を広げる

事例25 運ぶ①	84
事例26 運ぶ②	85
事例27 電車ごっこ	85

3. 場をつなぐ

事例28 スタンプラリー	88
事例29 恐竜館と日本館	90

4. まとめ

IV. 研究のまとめと課題 95

V. 資料

1. 平成22年度公開保育研究会 講演記録	103
豊かな感性を育む環境～さまざまな「場所」に注目して 永井理恵子先生	
2. 平成23年度公開保育研究会 講演記録	115
「場」という視点から環境を考える 浜口 順子先生	
3. 学びの概要 幼稚園	124

おわりに	副園長 宮里 暁美	125
------	-----------	-----

はじめに

園長 中村俊直

お茶の水女子大学附属幼稚園は、「環境に対する豊かな感受性を育む」というテーマを設定して、平成20年度から継続して研究を行ってきました。本研究紀要は、このような研究の、3・4年次の成果をまとめたものです。

このテーマの下に、1・2年次は、主として園庭の自然環境と子どもたちとの関わり合いに焦点をあてて研究しました。3・4年次の研究は、園舎内部の空間に力点を置いています。園舎とその周辺のさまざまな空間が、どのように子どもたちに影響を与え、また子どもたちがどのようにそれを積極的に活用しているのかを明らかにしようという試みです。そして教員たちは、そのことによって子どもたちの自己表現の形成や他者との関わり発展に手を貸して、それをでき得る限り高いところまで導こうと努力していることが明らかにされています。

この紀要には全部で30ほどの事例が集められ、そこから考察が発展しています。この事例の一つひとつが大変興味深いものです。ここには子どもたちのある日の日常生活の一コマが切り取られて、たいへん生き生きと描かれています。教員たちは、日常の園児たちの具体的な行動を注意深く観察し、子どもたちの感情や行動をしっかりと受け止めて、そこからその子どもに応じた、あるいはその場面に応じた指示や対応を行い、子どもたちの意欲を引き出し、また成長させようとしています。

本園の園舎の構造は比較的単純で、玄関を入るとまっすぐに長い廊下が伸び、その突き当たりには、この園で最も広い部屋である遊戯室があります。この廊下はほぼ東西に伸びているので、廊下の南側に6つの保育室が並び、その北側には職員室、園長室、保健室などの部屋が並んでいます。しかしながら、一見単純な構造に見えても、実は、さまざまな空間があることがわかります。大きな空間、小さな空間、広い空間、狭い空間、長い空間、短い空間、誰からもよく見える空間、人目にあまり触れない空間、園舎の内部の空間、園舎の内部と外部とをつなぐ空間、よく慣れ親しんでいる空間、あまり行くことのない空間など、さまざまな空間があります。また同じ一つの空間でも、扉を開けておくか閉めておくかによって、また衝立などで区切るか広々と使うかによって、全く違う機能が出現します。子どもたちは、この園舎のさまざまな空間を上手に使って自分たちの行動を広げ、また教員たちはこの多様な空間を最大限に活用して子どもたちの意欲を引き出しています。

本園の教育の理念（「教育の姿勢」）は、つぎのように明言されています。即ち、「幼児一人ひとりの思いに沿った生活の自然な流れを大切に考え、同じことを同じ時にどの子どもにも教え込むようなことはしていません。その時々、一人ひとりに合わせた指導を行って、個々の子どもの興味や意欲、自ら考え行動する姿勢を育てようとしています」と。このような教育の姿勢が、本研究においてもはっきりと貫かれているのがわかっていただけるのではないかと思います。

おわりに

副園長 宮里 暁美

平成20年度より4年間「環境に対する豊かな感受性を育む」をテーマとし研究に取り組み、ここに、3・4年次の研究内容を紀要にまとめることができました。環境に関わる子どもたちの姿を記録し事例をもとに話し合いを重ねる中で、多くの学びを得ました。目に見えるものことから研究を始めましたが、研究を進める中で、光や影、醸し出す雰囲気、時間など、目に見えないものことへと視点がひろがっていきました。

醸し出す雰囲気を考えたとき、ある卒業生のことを思い出しました。大人になって本当に久しぶりに幼稚園を訪れた彼は、幼稚園の扉を開け、なつかしそうに辺りを見回していました。そのまなざしが長い廊下のところでとまりました。そして「そうなんだよ。この廊下なんだ」とつぶやきながら見つめ続けていたのです。長く伸びる廊下、6つつながっている保育室、遠くに見える遊戯室の入り口、見上げれば高い天井、天窓にステンドグラス、薄暗い光、静けさといった、まさに幼稚園全体から醸し出される雰囲気そのものが大切な記憶となっているのだということが、その姿からうかがえました。

保育室から庭へと出ていく戸口に小さな三段の階段があります。園庭に駆け出していくのにはまだ少し躊躇する思いのある子どもが、その小さな階段にちょこんと腰をかけ、みんなの様子を見ていることがよくあります。その場所には暖かな日差しが当たり、いつまでもいられそうな気持ちになる、そんなうれしい階段です。みんなが腰をおろす場所は少しくぼんでいるようにも見え、これまでに、数え切れないほどの子どもたちがここに腰をおろしたであろうということが推察されます。

記憶は人の中に残るものですが、それだけではなく、場そのものにも残っているということがあるのではないのでしょうか。階段に座り我が身をあずけ、ゆっくり時を過ごした記憶は、場の中にしっかり残っているように思えました。小さな階段を見ていると、「ここに座ってごらん」という声が聞こえてくるような気がします。階段は上り下りするためのものであり、座るために作られたのではなかったでしょう。でも、その階段が思わず座りたくなる場所だったこと、そのような子どもの動きや思いを大切に受け止めたこと、そのことによって階段がうれしい階段になっていったのだと考えます。

幼稚園の中には、この階段のように子どもたちによって本来の意味を超えた意味が付与された空間がたくさんあります。私たちは、子どもが「ここ」という場所を見つけることを大事にする保育をしています。そのことが、子どもが場に思いを込め、愛される空間が生まれ、うれしい記憶が残るというつながりを生み出したのだと考えます。子どもの思いや動きを受け止め、共に歩む保育をこれからも重ねていきたいと思えます。

本研究はここで一つの区切りとなりますが、今後も研究を通して明らかになったことを大切にしながら実践を積み重ねていきたいと考えます。最後になりましたが、多くのご指導をいただきました講師の先生方、研究を支えてくださいました本大学の先生方、本園の教育活動や研究を見守り支えてくださっている学校評議員の皆さま、附属学校園の先生方、環境に関わり豊かな活動を共に創り上げていった子どもたちや保護者の皆さまに心より感謝申し上げます。

ご指導いただいた先生方

東京大学大学院教育学研究科教授	秋 田 喜代美 先生
聖学院大学人間福祉学部児童学科教授	永 井 理恵子 先生
TOKYO PLAY 代表・NPO 法人日本冒険遊び場作り協会理事	嶋 村 仁 志 先生
環境デザイン研究所主任研究員・こども環境学会理事	井 上 寿 先生

研究協力者

本大学准教授	浜 口 順 子 先生	刑 部 育 子 先生
本大学講師	菊 地 知 子 先生	佐 治 由美子 先生
本大学学部教育研究協力員（平成22年度）・尚綱大学短期大学部准教授（平成23年度）		塩 崎 美 穂 先生

研究同人

園 長	中 村 俊 直	副 園 長	宮 里 暁 美
教 諭	伊集院 理子	小 川 知 子	上坂元 絵 里 佐 藤 寛 子
	高 橋 陽 子	吉 岡 晶 子	川 辺 尚 子 矢 吹 阿祐美
養護教諭	小 熊 三重子		
非常勤講師	下 田 美由紀	鈴 木 由布子	矢 崎 朋 代

イラスト 斎 藤 明 子

平成23年度 お茶の水女子大学附属幼稚園研究紀要
環境に対する豊かな感受性を育む - 3・4年次 -

平成24年1月20日

発行 お茶の水女子大学附属幼稚園
〒112-8610 東京都文京区大塚2-1-1
TEL 03-5978-5881 FAX 03-5978-5881
印刷 よしみ工産株式会社